

<第2次総合計画進行管理表>

施策評価表

作成日 令和07年06月20日(金)

1. 基本事項

施策		渋沢栄一の顕彰と精神の継承		期間	令和5年～令和9年	施策担当部署名	渋沢栄一政策推進部 渋沢栄一政策推進課
総合計画	大項目	2	次代を担う人と文化を育むまち	目的・対象			全国的に渋沢栄一のことが広く認知され深谷市の認知度が向上するとともに、深谷市の交流人口が増加することを目指します。また、渋沢栄一の考えを継承し、その知恵を学んで未来を切り拓く人たちを増加させることを目指します。
	中項目	2	誰もが生きがいを持ち学ぶことのできるまちづくり				
	小項目	4	渋沢栄一の顕彰と精神の継承				
	主要プロジェクト	1	渋沢栄一を核としたひとづくりプロジェクト				
重要度・満足度	渋沢栄一の顕彰と精神の継承に対する市民の重要度は低く、満足度は高くなっています。			施策推進のための主な取組		渋沢栄一関連施設の来訪者を増やすことによる地域の活性化 渋沢栄一を生かした生涯学習の機会の充実 渋沢栄一の精神を学ぶ「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」の推進	
施策を取り巻く社会状況等	大河ドラマを契機として渋沢栄一の功績や精神を全国に広めるとともに、渋沢栄一記念館を中心に来場者の多様なニーズに応じた展示などを行うこと、また、未来を切り拓く人材を育てるため、企業経営者などが渋沢栄一の精神を学ぶ場の機会が必要となっています。						

2. 評価指標

上段は目標値（令和4年度は前期基本計画に基づく目標値、令和5年度以降は後期基本計画に基づく目標値）、下段は実績値

区分	指標名（上段） 算出式・説明（下段）	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
			渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数	千人	70.00	234.00	244.00	254.00
	渋沢栄一記念館、中の家、尾高惇忠生家、誠之堂・清風亭、旧煉瓦施設		163.60	171.97	278.61			
成果指標	渋沢栄一ひとづくりカレッジの参加者数	千人	-	6.00	16.00	60.00	150.00	300.00
	現地・オンライン参加者、関連動画再生回数		1.25	1.12	0.84			

3. 一次評価（今後の施策の方向性）

区分	拡充	1. 現状維持 2. 拡充 3. 縮小
令和6年7月3日の新一万円札発行を受けて、市内の渋沢栄一ゆかりの施設への来場者が増加したものと考えられる。今後、増加した来場者を継続させるために施設の整備などの施策の実施が必要となる。また、渋沢栄一ひとづくりカレッジの参加者数については、現地参加者の反応は良く、重要な施策ではあるが、指標達成のためには関連動画の作成による再生回数増加に向けた取組の拡充が必要となる。		
評価者		渋沢栄一政策推進課長 塚越 稔

4. 改善改革プラン（3. 一次評価を受けての具体的な解決策）

区分	具体的な対応策等
<input checked="" type="checkbox"/> 既存事業の拡充	ひとづくりカレッジについて、事業自体は非常に有意義なものであるが、指標達成のためには現地参加者に対する取組だけでなく、動画作成の取組が不可欠であり、事業を拡充する必要がある。なお、動画作成を委託するにあたっては、市民にきちんと説明ができるように留意する。また、渋沢栄一を顕彰するためのPR事業については、費用対効果の面を十分に検討したうえで展開する。
<input type="checkbox"/> 事業の新規立案	
<input type="checkbox"/> 事業の廃止・縮小	
<input type="checkbox"/> 事務事業の再編	
<input type="checkbox"/> その他	

5. 二次評価（所属長の見解）

増加した渋沢栄一ゆかりの施設への来場者を継続させるとともに、新一万円札発行の盛り上がりを一過性にしないよう、既存事業を拡充することは妥当であるが、動画作成にあたっては、その必要性について説明ができるよう整理する必要がある。	
所属長	渋沢栄一政策推進部長 岡田 真